



東京藝術大学
創立120周年企画
TOKYO GEIYUTSU DAIGAKU THE 120TH ANNIVERSARY

岡倉天心—芸術教育の歩み—



会 場：東京藝術大学大学美術館(東京都台東区上野公園 12-8) 展示室1、2、3

会 期：平成 19 年 10 月 4 日(木)～11 月 18 日(日) 40 日間

開館時間：10:00～17:00(入館は 16:30 まで)

休 館 日：月曜日(ただし 10 月 8 日(月)は開館、翌 10 月 9 日(火)を閉館)

主 催：東京藝術大学、NHK

観 覧 料：一般 500 円(400 円)、高校生・大学生 300 円(200 円)、中学生以下は無料

* ()内は 20 名以上の団体料金(団体観覧者 20 名につき 1 名の引率者は無料)

* 障害者手帳をお持ちの方とその介護者各 1 名は無料

協 力：株式会社一新コマース

株式会社竹尾

中越パルプ工業株式会社

株式会社デジタル・イー

協 賛：東京藝術大学美術学部杜の会

株式会社東京美術倶楽部

野村ホールディングス株式会社

東京ガス株式会社

凸版印刷株式会社

問い合わせ：03-5777-8600(ハローダイヤル)

ホームページ：<http://www.geidai.ac.jp/museum/>

交通案内：JR 上野公園口、東京メトロ千代田線根津駅より徒歩 10 分

京成上野駅、東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅より徒歩 15 分

【展覧会概要】

平成 19(2007)年は、東京美術学校の創立から 120 周年を迎える記念の年にあたります。戦後に東京美術学校を継承した東京藝術大学は、これを記念して様々な記念事業を実施いたしますが、その中心事業のひとつとして大学美術館を会場として開催される展覧会が「岡倉天心—芸術教育の歩み—」です。

この展覧会は、本学の創設に深くかかわり、開校まもなく校長となった天心・岡倉覚三(1863—1913)の業績を、東京美術学校在職時代を中心として、多角的に検証、紹介するものです。天心の行った美術に関する仕事は、美術学校の教育環境の整備や学生指導にとどまらず社会連携制作の推進、美術団体の支援、美術行政の整備のほか、博物館事業、美術史の編纂、評論、文化財保護など広範囲にわたっています。本展では、天心の在職期間である明治 20(1887)年から同 31(1898)年までの活動を中心に構成しながらも、野に下って以降の仕事についても「芸術教育の歩み」という観点からとらえ直していきます。すなわち、天心の遺志をついだ歴代教官や卒業生たちの活動を追いながら、今日の東京藝術大学に引き継がれてきたものに注目していこうというものです。そのことによってこれからの本学が天心から改めて学ぶべきことはなにか、という問題も浮かび上がってくるでしょう。

この展覧会は四つの章で構成されています。

第一章では、東京美術学校時代の岡倉天心の事績を写真や資料等によって概観します。大学美術館、大学図書館、教育資料編纂室が所蔵する資料に加えて、個人や他機関が所蔵する貴重な資料によって天心の活動を追います。

第二章は天心の理想というテーマのもとに、まず、美術学校が蒐集した古美術作品によって天心の日本美術に関する感性をさぐります。《絵因果経》(国宝)をはじめ、天心の眼が集めたすぐれた古美術や模本は、そのまま美術教育のよき教材でもあったのです。次に、初期美校教授陣の制作活動を紹介します。天心に選ばれた教授陣は天心の理想の実践者であったともいえるでしょう。狩野芳崖《悲母観音》(重文)、橋本雅邦《白雲紅樹》(重文)などその代表作が出品されます。また、日本絵画協会、日本美術院、日本彫刻会といった天心主導の展覧会出品作から、天心とのかかわりの深い作品を選んで展示します。最後に天心没後にその理想を受け継いだ下村観山や松田権六らの優品を選び、天心が近代美術に果たした役割を考えます。

第三章は、芸術教育の現場という観点から、天心在職時代を中心に美校の授業内容を紹介します。学生制作品だけでなく当時使われていた教材などを織り交ぜながら教室の雰囲気を感じていただくというものです。

第四章では、芸術と社会というテーマに基づき、天心がはじめたさまざまな社会連携事業について紹介いたします。依嘱によって野外彫刻、銅像、室内装飾品を制作する事業、あるいは文化財保存の一環として古美術の一級品を模写・模造する事業などは、いまだその今日的価値を失いません。そして展覧会の最後はエピローグとして美校辞職以降の天心の足跡について振り返ります。

平成 16(2004)年に東京藝術大学は国立大学法人となりました。大学の運営形態が大きく変化している現在、私たちが天心から学ぶべきことは少なくありません。この展覧会が今後の大学のあり方を探っていくひとつの契機になることを期待しております。

なお、関連事業として、展覧会の内容を補完する意味でシンポジウムを 3 回開催いたします。詳細につきましては、同封のチラシをご参照願います。

【おもな出品作】

第1章

天心岡倉先生(草稿)	下村観山	東京藝術大学大学美術館	大正11年
活人箭	平櫛田中	東京藝術大学大学美術館	昭和37年
「欧州視察日誌」	岡倉天心	日本美術院	明治19年
「美学及美術史」講義ノート	(三宅誠之助筆記)	東京藝術大学附属図書館	明治20年代

第2章

絵因果経(国宝)		東京藝術大学大学美術館	奈良時代
羅漢図(重文)		東京藝術大学大学美術館	南宋時代
悲母観音(重文)	狩野芳崖	東京藝術大学大学美術館	明治21年
白雲紅樹(重文)	橋本雅邦	東京藝術大学大学美術館	明治23年
武士	小堀鞞音	東京藝術大学大学美術館	明治30年
嗣信最期	下村観山	東京藝術大学大学美術館	明治30年
伎芸天	竹内久一	東京藝術大学大学美術館	明治26年
海辺と湖辺の図小衝立	六角紫水	広島県立美術館	昭和18年

第3章

村童観猿翁	横山大観	東京藝術大学大学美術館	明治26年
熊野御前花見	下村観山	東京藝術大学大学美術館	明治27年
元禄美人像	板谷波山	東京藝術大学大学美術館	明治27年
寡婦と孤児	菱田春草	東京藝術大学大学美術館	明治28年

第4章

一休像模写	横山大観	東京国立博物館	明治24年
徽宗筆猫図模写	菱田春草	東京藝術大学大学美術館	明治29年
鑑貞筆山水図模写	下村観山	東京国立博物館	明治30年
綵観	竹内久一ほか	東京藝術大学大学美術館	明治38年
松方正義像木型	高村光雲	東京藝術大学大学美術館	明治24年
模造・伝月光菩薩立像	竹内久一	東京国立博物館	明治24年



【貸し出し画像一覧・キャプション】



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨

- | | | | |
|-----|--------------------|-------------------------------|-----------------|
| ① | よこやまたいかん
横山大観 | そんどうかんえんおう
《村童観猿翁》 | 東京藝術大学蔵 |
| ② | かのうほうがい
狩野芳崖 | ひぼかんのん
《悲母親音》 | (重要文化財) 東京藝術大学蔵 |
| ③ | しもむらかんざん
下村観山 | てんしんおかくらせんせい
《天心岡倉先生(草稿)》 | 東京藝術大学蔵 |
| ④ | たけのうちきゆういち
竹内久一 | ぎげいてん
《伎芸天》 | 1893年 東京藝術大学蔵 |
| ⑤ | ひらくしでんちゆう
平櫛田中 | かつじんせん
《活人箭》 | 1962年 東京藝術大学蔵 |
| ⑥ | まつだごんろく
松田権六 | そうかちようじゅうもんこてぼこ
《草花鳥獸文小手箱》 | 1919年 東京藝術大学蔵 |
| ⑦ | やまだきさい
山田鬼斎 | なんこうこがたどうぞうきがた
《楠公小型銅像木型》 | 1899年 東京藝術大学蔵 |
| ⑧、⑨ | ひらくしでんちゆう
平櫛田中 | おかくらてんしんぞう
《岡倉天心像》 | 1931年 東京藝術大学蔵 |

展覧会についての問い合わせ、画像借用の申し込みは下記までお願い致します。

東京藝術大学大学美術館 企画係

Tel: 050-5525-2438 Fax: 050-5525-2532 E-mail: kiryu@off.geidai.ac.jp

yamamoto@off.geidai.ac.jp